

光物性研究室 広報誌

# HB-style

2010 年  
7 月号  
Vol. 17



HB-style

Vol. 17 7月号

## 特集 VUVX2010

カナダのバンクーバーで開催された国際会議 VUVX2010。光物性研究室からは口頭・ポスター発表を合わせて 8 件の発表が行われた。カナダでの思い出を M1 羽淵隆文が報告する。

ページ 2, 3



## 光物性研究室カレンダー

国際会議 VUVX2010 や大学院推薦入試、合格発表が行われた 7 月。光物性研究室は笑顔と喜びに溢れ、活気のあるひと月だった。

ページ 4



# VUVX2010

37th International Conference on Vacuum Ultra Violet and X-ray Physics

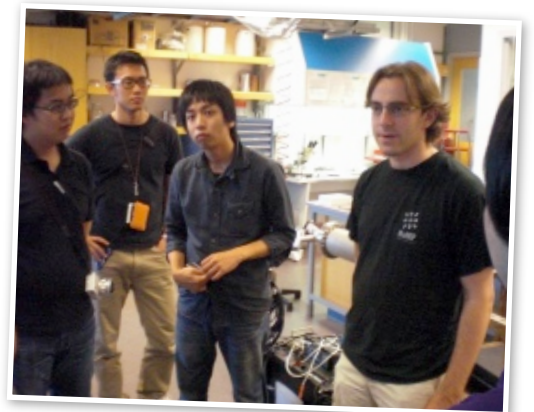
## 7/9 Vancouver

パスポート、ポスター、お金、、、忘れ物はない。国際線でカナダのバンクーバーへ向かう。飛行機に機内食・客室乗務員さん、全てが初めて。これまでの HiSOR での研究の成果を海外で発表できる素晴らしい機会。精一杯世界にアピールしてこよう。そう心に誓った。

バンクーバーはオリンピック、そして世界で最も住みやすい都市として有名だ。降り立った瞬間、突き抜けるような青空と美しい街並が迎えてくれた。否が応にも気持ちが高ぶる。時差の影響を感じながらも、交通手段と会場の確認のため街へでかける。日本と全く違う文化・システムに戸惑い移動すらままならない。自分が海外にいることを実感した。

## 7/10 University of British Columbia

学会は University of British Columbia (UBC) で開催される。海に面した開放的な雰囲気に豊富な緑と真新しい建物、そして広島大学よりも広い敷地面積。目に入るもの一つ一つが新鮮だ。光電子分光を用いた固体物理の研究で有名な Sawatzky 教授の研究室を訪問した。案内して頂いたポストドクの Giorgio Levy さん。高温超伝導体に K 元素を蒸着しホール濃度を制御する独自の研究手法を丁寧に説明してくれた。国籍は関係ない。目標に向かって真っすぐな人は万国共通で輝いている。



## VUVX2010

### 7/11 Welcome Reception

初日には Welcome Reception が催された。会場には見知らぬ人々が入り乱れ、どこの国の人かすらわからない。しかし、この場は世界中の研究者に自分を知ってもらえるチャンスだ。積極的に声をかけることにした。お酒を飲んでいる二人組に声をかけた。「ハ、ハロー。」緊張してなかなか英語が出てこない。なんとか自己紹介を終え話していると、どうやら日本に来たことがあるだ。日本の話題を中心に談笑した。別の人にも声をかけてみた。製品の宣伝に来ている方で、自分のしどろもどろな英語にも耳を傾けてくれた。みんな紳士的で親切だった。恐れる必要など全くなかった。



## 7/12-16 Conference

Opening Ceremony が終わると、世界的に著名な研究者たちの発表が息つく間もなく行なわれていく。最新の研究報告に分野の枠を超えた面白い取り組み。少しでも多くを学んで広島に持ち帰ろう。そう思い、かじりつくように聞き入った。HiSORからは、島田教授、岩澤助教、中島陽祐さんがオーラルでの発表を行なった。先生、先輩方の堂々とした発表を見て、自分がその関係者であるということを誇りに感じた。いつか自分も

あの舞台に立ちたいと思った。さあ、次はいよいよ僕のポスター発表だ。苦勞して得たデータだ、自信がある。一人目。しまった、用意してた英語が完全に飛んでしまった。身振り手振りを交えなんとか一通り説明する。相手がうなずいてくれた。自分の意図や研究内容が伝わったようだ。胸をなで下ろす。一人目を終え要領をつかんだその後は、気持ちに余裕ができたのか、スムーズに説明することができた。セッション終了時のやり遂げたという達成感が心地良かった。



## 7/15 Banquet

日本を飛び出しカナダの文化や人々との出会いを楽しんだ。街に出ると、信号機や郵便ポストですら物珍しかった。欧米の方の個性豊かなファッションにも刺激を受けた。しかし、何より食事には驚いた。大衆食堂で食事を注文したら、三人前はあろう肉料理が出てきた。欧米人の食のボリュームに思わず吹き出し、四苦八苦しながら食べた。

カナダでの生活にもだいたい慣れてきて、バスに乗って思いつきで途中下車し、海を眺めたりもした。自分がバンクーバー市民であるかのように錯覚した。

Banquet は水族館を貸し切って行われた。魚を眺めながらカナダビールを楽しみ、肉や魚料理に舌鼓を打った。途中にはイルカショーがあり、国際学会ならではのもてなしに感嘆した。



## 7/16 Closing Ceremony

長いようで短かった VUVX が終る。Closing Ceremony では三年後の VUVX が中国で開催されると発表された。この学会のために一生懸命に準備してきたことを振り返ると感慨深くなった。三年後の光物性研究室はどうなっているのだろうか。



## 7/17 Hiroshima

飛行機に乗ると、これまでの疲労からか睡魔に襲われ、すぐに眠ってしまった。気がつけばもう広島。日本のジメっとした暑さに苦笑したが、無事に帰ってきたことを素直に喜んだ。帰ってきてまず最初にしたことは、おにぎり食べる。学会中は肉食中心でしょうじき参っていた。だからどうしてもお米を食べたかった。お米を食べた時の安心感。自分が日本人であることを再認識した瞬間だった。

## My Feeling

今回の学会で英語の重要さを痛感した。どんなに先端性のある研究をしていても、正確に意思を伝えられなければ効果は半減してしまう。発表を聴くにしてもしっかり聞き取れなければ、曖昧な理解となり誤った解を導く。目標は違っていてもみんな同じ研究者である。たとえ英語ができなくても、殻に閉じこもらず元気に話しかければ、温かく接してくれる。そう学んだ。

谷口教授をはじめ、多くの方々の支援とご協力から研究成果を発表することができました。大変感謝しております。この場を借りて感謝の言葉を述べさせていただきます。

MI 羽瀨 隆文



# 2010年7月 光物性研究室カレンダー

## 07.05 (月) 大学院理学研究科 推薦入試

7月5日、広島大学大学院理学研究科の推薦入学試験が行われた。小論文（語彙説明、英語）と口述試験にて合否が決定される。光物性研究室からは市来健吾と岡本和晃が試験に挑んだ。審査結果は7月14日、理学部前の掲示板および理学研究科のwebページにて発表される。

理学研究科：[http://www.hiroshima-u.ac.jp/sci/in\\_juken/](http://www.hiroshima-u.ac.jp/sci/in_juken/)

## 07.11 (日) ~ 16 (金) 国際学会 VUVX2010

7月11~16日にかけて、37th International Conference on Vacuum UltraViolet and X-ray Physics がカナダのバンクーバーで開催された。光物性研究室からは総勢8名が参加し広島大学放射光科学研究センターで得られた研究成果を発表した。多くの研究者との議論と交流から様々なことを学び、今後の研究の指針とした。詳しくは今月号の特集を参考のこと。



## 07.14 (水) 大学院理学研究科 合格発表

7月14日、広島大学大学院理学研究科の推薦入試の合格発表があった。受験した市来健吾と岡本和晃は、理学部前掲示板に張り出された合格者番号を確認し、大学院理学研究科への進学を勝ち取った。その後、お世話になった先生方に合格を報告し、先輩や同期メンバーと喜びを分かち合った。

推薦入学試験結果：[http://www.hiroshima-u.ac.jp/sci/in\\_juken/gokaku/index.html](http://www.hiroshima-u.ac.jp/sci/in_juken/gokaku/index.html)



## 07.31 (土) ~ 08.01 (日) H22年度 光物性研究室 ゼミ合宿

7月31日~8月1日、毎年恒例となったゼミ合宿が島根県浜田市にて行われた。詳しくはHB-style 8月号で特集いたします。ご期待下さい。

### 編集部からのお知らせ

#### スタッフ募集

HB-style 企画・編集に参加していただける方を募集しています。

#### 企画の募集

取り上げてほしい企画やテーマを募集しています。気軽にお寄せください。

#### 今後の企画について

「理学部D棟」、「HiSOR II 計画の現状」、「Igor」、「教えて！中島先生!!」、「光物性OB/OGに聞きました」、「2010年度ゼミ合宿」などのトピックを考えています。

#### 発行予定について

毎月の発行を予定していますが、作者の都合により遅延、または休

刊となる場合があります。ご了承ください。

企画・編集：安齋太陽 (写真中)  
編集協力：古本一仁 (右)、黒田健太 (左)

